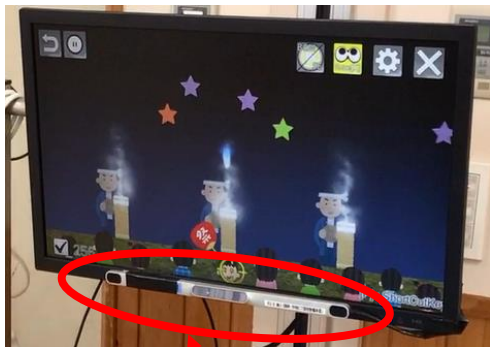


1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山支援学校		指導者名	吉田 暁彦・中谷 幸希
実践場面 (教科名)	自立活動		単元・題材名	自分で花火を打ち上げよう
学習目標・ ねらい	・画面のイラストを見ると変化が起こることで因果関係の学習をする。 (自立活動の区分：環境の把握(5)) ・教師の言葉掛けを受け止めながら「見る」力や「見続ける」力をつけることで、視線入力装置を用いて、意思表示ができるようにする。 (自立活動の区分：人間関係の形成(1) 環境の把握(1)(3))			
対象児童生徒の 実態	肢体不自由部門 中学部 3年			
	・服薬調整中で覚醒レベルが低く、授業で実物を提示するが、意思の表出が少ない。 ・教師の言葉掛けに対して教師の顔を見ることはあるが、給食以外に興味を示す物が少ない。提示した物に対して、自ら手を伸ばして触れるために注視することは少ない。			
活用の概要				
<視線入力 EyeMoT Sensory 花火> [アプリの説明] - 画面の中の花火師を見る(一定時間見つめる)ことで花火が打ち上がる仕組みである。 - 左右と中央に並んだ花火師3人にそれぞれ視線を向ける(注視する)ことでたくさん花火を上げることができる。 - とてもきれいな画面の変化を見ることができるアプリである。 - 夜空に星が左右に流れながら飛んでいくので、興味を引きやすい。 [実践] - 左右に並んだ花火師を見るように教師が「こっちよ」や「星がきたよ」と言葉掛けをして、視線を向けるように促す。その言葉掛けに答えて視線を向けることもあり、繰り返し取り組んでいる。				
  視線データを取得する Tobii アイトラッカー				
(出典)：「EyeMoT Sensory 花火」島根大学総合理工学部 伊藤 史人				
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等	成果や活用のポイント - 週1回15分程度取り組んだ。繰り返し取り組むことで、「花火師を見ると花火が上がる」ことを理解し、自分から花火師3人に視線を向けることができた。 - アプリが視線に反応して、すぐに大きな花火が上がることで意欲を持って取り組むことができた。			
	今後の課題 - 視線の軌跡を見ると、左右のどちらか一方しか見られていないことが多いので、画面全体を見ることができるとよい。 - 本実践で学習した方法を活用し、視線を向けることで見たい動画を選択したり、参加できる対戦ゲームなどに取り組んだり、視線で意思を伝える力を伸ばしたい。			